

PIERIA ファッションイタリア語文法講座 レベル1 第3課

3.1. 不定冠詞

不定冠詞は、ひとまず英語の **a, an** のようなものと考えておいてください。

つまり、聞き手に話し手の指すものが了解されていないときに、その名詞の前につける冠詞です。イタリア語の不定冠詞の形態は次のとおりです。形から想像されるように、もともとは数詞の「1」が弱まってできた語です。

男性	単子音で始まる名詞の前 (標準形)	un	un ragazzo (男の子)
	母音で始まる名詞の前	un	un amico (友達)
	連続した子音で始まる名詞の前*	uno	uno studente (学生)
女性	子音で始まる名詞の前 (標準形)	una	una ragazza (女の子)
	母音で始まる名詞の前	un'	un'amica (女友達)

ファッション用語の例を見てみましょう。

un piumino (ダウンジャケット)	un abito (ワンピース)
un anello (指輪)	un abito (スーツ、ドレス)
uno spillo (ピン)	uno zaino (リュック)
una gonna (スカート)	una felpa (トレーナー)
un'asola (ボタンホール)	un'origine (生産地)

* これらの原理は定冠詞のところでお話したことと同様です。un の後に2つの子音で始まる名詞が来ると、3つの子音を連続して発音しなければならず、これが読みくいたために、「古形」の uno が用いられます。

3.2. 冠詞の機能

定冠詞と不定冠詞の機能をざっばに説明すると、下記ようになります。

定冠詞 (il, la)	話者が「聞き手は特定できる」が考えている物
不定冠詞 (un, una)	話者が「聞き手は特定できない」と考えている物

これを日本語で考えてみましょう。

昨日 ある古着屋 に行ったのだけれど、センス はいいし、値段 は手ごろだしとても気に入った。バイヤー は長いことイタリアに住んでいたらしい。

この場合、ある古着屋 は聞き手にとってイメージされていないので不定冠詞が付きます。センス、値段、バイヤー は「その古着屋の」というイメージができあがっていますから、定冠詞がつくわけです。(このようなイメージの固定を「特定化」と呼びます。)

わかりにくい場合は、ひとまず英語の定冠詞 **the** に対応するのが **il**、不定冠詞 **a** に対応するのが **un** だと考えておくとよいでしょう。実際には、英語に比べて定冠詞を積極的に用いるなどの違いがあるので、例文を読みながら観察を続けてください。

3.

練習問題 (3)

I 次の単語の意味を調べ、不定冠詞と定冠詞を書きなさい。

		意味	不定冠詞	定冠詞
1	ombrello			
2	sconto			

(略)

II 次のイタリア語を日本語に訳しなさい。

(略)

3) Il campione è dentro la scatola.

(略)

III 伊作文

(略)

3) それらの靴 (scarpe) はスーツケース (valigia) の中にあります。

(略)

【コラム 3 : 複数で使う名詞】

ファッション用語には、常に複数で使われる名詞がたくさんあります。

※ (男)=男性名詞、(女)=女性名詞

pantaloni	(男) ズボン	pantaloncini	(女) ショートパンツ
calzone alla zuava	(女) 半ズボン		

(略)

これらの名詞が単数で使われるのは、辞書などで見出し的に使われる場合、そして衣服以外の意味 (例 : **quadro** 「四角」、**lo Stivale** 「長靴の国=イタリア」、**calzone** 「カルツオーネ (詰め物をして半月形に折ったピザ)」など) を持つ場合、もしくは、”**Non c'è l'altra scarpa.** (靴下が片方無い)” など、少し特殊なケースです。

日本語では、「はさみ 1 個」、「ズボン 1 本」、「靴下 1 足」というため、日本人は単数形で表現しがちです。このような単語は、複数形が基本だと思って覚えてしまいましょう。

<複数での使用例>

Queste forbici non tagliano affatto. このはさみはちっとも切れない。

Compro una camicia a quadretti rossi e bianchi.

私は赤と白のチェックのシャツを買う。

(略)